様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １８ 日現在

機関番号：１１４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ０２６２８

研究課題名（和文）中東地域の日本語教師と学習者の言語意識の把握と相互理解を目指した実践モデルの構築

研究課題名（英文）Development of a practice model aiming to understand linguistic perception of Japanese language teachers and learners in Middle East, and build their mutual understanding

研究代表者
市嶋　典子（Ichishima, Noriko）

秋田大学・教育推進総合センター・准教授

研究者番号：９０５３０５８５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では，中東地域の日本語学習者が，なぜ日本語を学ぶことを選択したのか，日本語にまつわるどのような経験をし，どのような言語意識を持つようになったのか，そして，その言語意識がアイデンティティ構築にどのように関わっているのかを明らかにした。分析対象データは，中東地域の日本語学習者と日本語教師に対して2014年から2017年に複数回行った聞き取り調査と彼女／彼らの手記である。データはライフストーリーインタビューの枠組みに基づいて分析をした。
　これらの分析結果を踏まえ，相互理解を目指した実践モデルの試案を構築し，日本語教育の果たす役割を問い直した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究は，政変状況下の中東地域で強く平和を希求する日本語教師，日本語学習者の声を拾い上げ，それぞれのライフストーリーに注目することにより，日本語教育が貢献できる内容を明らかにし，実践モデルの試案を構築した。本研究は，政治的・社会的文脈，制度上の困難や葛藤，教師の教育観，学習者の学習観，学びのプロセスを有機的に関連付けることによって，日本語教育実践モデルを提案するところに特色がある。各教師や学習者が持つ語りが形成された背景となる個人的な経験や地域状況を深く考察することで，ローカルな知を社会的文脈と接合して問い直すことができ，新たな実践モデルの試案をボトムアップ的に構築することができた。

研究成果の概要（英文）： This study is going to demonstrate, 1) why the Japanese language learners in the Middle East had decided to learn Japanese, 2) what kind of linguistic perceptions they had developed, after having what kind of experiences related to Japanese language they had on course of learning Japanese both inside and outside classroom, and 3) how the linguistic perception had affected to their identity development. The study will analyse the interview data collected from interviews to Japanese language learners and teachers in the Middle East conducted from 2014 to 2017 and their memorandums. The applicant analysed the data using the life story interview method framework.
  This study will first analyse the relation between Japanese language and identity for the Japanese language learners, and then, attempt to re-identify the role and ideology of Japanese language education.

研究分野：日本語教育学

キーワード：日本語教育学　言語意識　アイデンティティ　相互理解　平和構築　紛争　中東地域　実践研究

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

国際交流基金(2012)の調査によると，海外の日本語教育の現状は，1979 年から 2012 年までに，機関数が 1,145 機関から 16,046 機関となり 14.0 倍に，教師数は 4,097 人から 63,805 人となり 15.6 倍に，学習者数は 127,167 人から 3,985,669 人となり 31.3 倍にそれぞれ増加していた。全世界における機関，教師，学習者の総数を地域別に比較すると，いずれにおいても東アジア，東南アジアが占める比率が圧倒的に高い。一方で，東アジア，東南アジア以外の地域では，機関，教師，学習者それぞれの割合は全て 1 割程度かそれ以下である。中でも，中東・アフリカ地域の全体に占める割合は極めて低く，当該地域における日本語教育に関する調査や研究は，ほとんどなされてこなかった。また，アラブ諸国の各地で起こった政変の影響により治安が悪化したこともあり，この地域の日本語教育の動向は等閑視されてきた。この中には，決して数は多くはないが，現在も紛争状況にある国々も含まれている。国際交流基金（2012）では，アフガニスタンやシリアなどで，日本語教育が行われていることが報告されているが，治安悪化による在留邦人の退避により，各国とも日本語学習を継続することが困難な状況にあり，その実態はほとんど明らかにされていない。また，日本語教育の分野において，紛争という困難な社会的状況におかれ，難民として世界に離散する学習者の現状やその問題点については，ほとんど議論されてこなかった。

２．研究の目的

本研究は，中東地域の日本語学習者が，なぜ日本語を学ぶことを選択したのか，日本語にまつわるどのような経験をし，どのような言語意識を持つようになったのか，そして，その言語意識がアイデンティティ構築にどのように関わっているのかを明らかにした上で，日本語教育実践モデルを構築することを目的とした。具体的には，1)シリアとシリアの政変の影響を受けたヨルダンの日本語教育事情を調査した。2)日本語教師，日本語学習者たちへのインタビュー調査により，社会的・政治的状況の変化の中で，彼／ 彼女らはどのように日本語と関わり，日本語の学びをいかに意味付けてきたかを明らかにした。3)授業観察から，実践内容や教育観が地域社会や組織や制度，学習者の学びとどのような関係を持っているのかを考察した。4)上記を総合的に考察し，平和構築につながる相互理解を目指した日本語教育実践モデルの試案を構築した。

３．研究の方法

以下のように中東地域の日本語教育の実態を調査し，実践モデルの構築を目指した。

1)中東地域の教育制度・教育事情・教育省等の政策文書の調査

2)インタビュー調査：日本語教師と学習者にインタビュー調査を実施し，教室内外での教育，学習環境や，教育観，学習観，言語観を詳細に問い，教師や学習者の意識を個別に深く分析した。

3)日本語教育実践を参与観察することにより実践の実態を把握し，1)2)と関連付けた上で総合的に考察し，日本語教育実践モデルに必要な視点を提示した。

４．研究成果

インタビュー調査をとおして、シリア紛争が泥沼化し，命の危機にさらされている中，日本語を学び続ける「忘却された日本語学習者」の存在を明らかにした。また，シリアを離れ，難民として外国で生活しながら，日本語を学び続ける学習者の存在も明らかにした。これらシリア出身の日本語学習者へのインタビューからは，彼／彼女らが，日本語を学ぶことにより，紛争という困難な現実を一時的に忘れ，精神状態を正常に保てていること，日本語を未来への希望，生きがい，自身のアイデンティティの一部としてとらえていることが明らかになった。また，紛争勃発以降，多くのシリア出身者が外国に難民や移民として渡っていること，その中には日本語学習者も含まれ，移住後も日本語学習を継続（または継続を希望）していること，母語であるアラビア語，英語やヨーロッパの諸言語とは異なる意味で日本語に価値を置き，そのことにアイデンティティを見出していること、シリア国内や移住先で、新たな市民性を生成していることが明らかになった。

以上の分析結果を総合的に勘案した上で、平和構築につながる相互理解を目指した日本語教育実践モデルの試案を構築した。

＜引用文献＞

国際交流基金（2012）『2012 年度日本語教育機関調査結果概要』国際交流基金

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 6 件）

① 市嶋典子（2018）．海外における日本語普及政策の展望と課題―A prospect and obstacles on promotion policy of oversea Japanese-language education. *Journal of Policy Studies*『総合政策研究』57，151-154.

② 市嶋典子（2018）．平和・希望としての日本語―内戦下の日本語学習者の語りから『ヨーロッパ日本語教育』22，142-146.

③ 市嶋典子（2017）．海外の日本語学習者の言語選択とアイデンティティ―シリアの日本語教師の語りから『ヨーロッパ日本語教育シンポジウム論文集』，317-323.

④ 市嶋典子（2017）．内戦，国家，日本語―シリアの日本語学習の語りから『現代思想（特集：いまなぜ地政学か―新しい世界地図の描き方）』2017 年 9 月号＝45(18), 236-245.

⑤ Mariotti, M., Ichishima, N. (2017). *Practical studies in Japanese language education: A report about Action Research Zero Workshop in Venice (Italy).* Annali di Ca' Foscari: Serie orientale, 53, 369-378.

⑥ 市嶋典子（2016）．シリアの日本語教師・学習者の市民性形成過程についての一考察『秋田大学国際交流センター紀要』5，1-20．http://hdl.handle.net/10295/3024

〔学会発表〕（計 7 件）

① 市嶋典子（2017 年 11 月 25 日）.「日本語公共空間と公共性」細川英雄，牛窪隆太，三代純平，市嶋典子『パネルセッション：日本語教育における公共性の意味と課題』2017 年度日本語教育学会秋季大会（朱鷺メッセ：新潟県新潟市）〔予稿集：pp. 47-48〕.

② 市嶋典子（2017 年 8 月 31 日）.「平和・希望としての日本語―内戦下の日本語学習者の語りから」第 21 回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム（ポルトガル：リスボン大学）.

③ 市嶋典子（2016 年 7 月 8 日）.「海外の日本語学習者の言語選択とアイデンティティ」2016 年日本語教育シンポジウム（イタリア：ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学）.

④ 市嶋典子（2015 年 12 月 5 日）.「シリアの日本語教師の言語意識とアイデンティティ構築過程」韓國日語教育學會 2015 年度第 28 回國際學術大會（德成女子大學校）.

⑤ 市嶋典子（2015 年 8 月 25 日）.「シリアにおける日本語学習者の言語意識と戦略」第 28 回日本語教育連絡会議（クロアチア：ザグレブ大学哲学部）.

⑥ 市嶋典子（2015 年 6 月 21 日）.「紛争下における日本語教育の意義と課題」言語文化教育研究学会第 2 回研究集会（石川県政記念しいのき迎賓館）.

⑦ 市嶋典子（2015 年 5 月 23 日）.「平和構築と日本語教育―シリア人日本語教師の語りをてがかりに」第 26 回日本沙漠学会学術大会（25 周年記念大会）公開シンポジウム（秋田市：カレッジプラザ講堂）.

〔図書〕（計 1 件）

① 市嶋典子（2016）．平和構築への市民性形成―シリアの日本語教師，日本語学習者の語りをてがかりに．細川英雄，尾辻恵美，マリオッティ，M.（編）『市民性形成とことばの教育―母語・第二言語・外国語を超えて』（pp. 151-188）くろしお出版.

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
http://ichishima.thyme.jp/index.html

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：細川英雄
ローマ字氏名：（HOSOKAWA，hideo）
所属研究機関名：早稲田大学
部局名：国際学術院
職名：名誉教授
研究者番号（8 桁）：80103604

(2)研究分担者
研究分担者氏名：平田未季
ローマ字氏名：（HIRATA，miki）
所属研究機関名：北海道大学
部局名：高等教育推進機構
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：50734919

(2)研究協力者
研究協力者氏名：ムハンマドバグダーディ
ローマ字氏名：Muhammad Baghdadi

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。